

連載



9月15日号掲載の当連載「ファンド市場ハイライト#17 世界のETF市場で見られる米国から欧州への資金シフト」でも指摘したように、2025年に入ってからの世界の株式ETFの資金フローを見ると、欧州株式市場への資金流入が目立つようになってきています。ETFは欧米先進国の投資家の動きが中心ですが、この度、BNPパリバ・アセットマネジメント (BNPP AM) がアジア太平洋地域の投資家を対象に行った調査「Europe Rising: The 2025 Asia Pacific (APAC)

Investor Pulse (欧州の台頭：2025年アジア太平洋投資家動向調査)」においても、同様の結果が示されました。この調査は、アジア太平洋地域の4つの主要市場 (オーストラリア、日本、香港、シンガポール) において、機関投資家やファンド選定担当者、プライベートバンキング・アドバイザーなど300人の投資専門家を対象に実施されたものです。

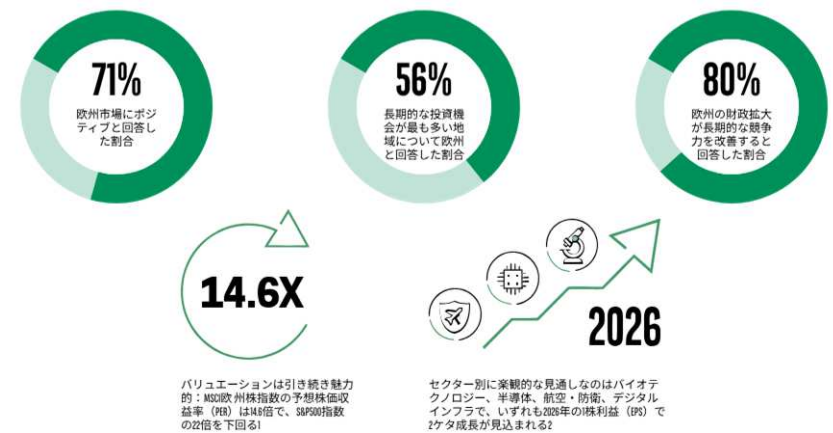
以下、主な調査結果を抜粋したのですが、長期的な投資機会が最も多い地域が欧州であると回答した割合が56%と半数を超えるなど、回答者の過半数が米国よりも欧州を魅力的な投資先に挙げています (図表1参照)。また、欧州で起きている構造改革や欧州再軍備計画、ドイツの5,000億ユーロ規模のインフラ投資計画などの財政拡大が欧州の成長性を高めるとの見方も示されました。これに加えて、米国株よりも魅力的な欧州株のバリュエーションといった要因もあり、調査全体を通じて欧州市場に対するポジティブな見方が

多く、欧州資産への関心が再び高まっていることが明らかになりました。

日本の投資信託市場においても (図表2参照)、欧州株ファンドへの資金フローは10カ月連続でプラスとなっており、今年1~11月までの欧州株ファンドへの資金流入額は計1,000億円を上回っています。ただし、4~8月は月間で100億円を超える資金流入額が見られましたが、9月は+8億円まで減速しました。それでも、10月は+28億円、11月は+42億円と、足元で再び資金流入額が増加傾向にあり、11月には欧州株ファンドの新規設定が2本、12月も1本が予定されています。年後半に入って米テクノロジー株の値動きが再び堅調になっていることから、米国株から欧州株への資金シフトの動きはやや鈍っていますが、米国株に大きく偏ったポートフォリオとなっている投資家はまだまだ多いと見られることから、欧州株ファンドは引き続き有力な分散投資先となりそうです。

(執筆：BNPパリバ・アセットマネジメント 藤原延介)

図表1 投資家調査「Europe Rising: The 2025 Asia Pacific (APAC) Investor Pulse」より主な結果の抜粋



[1] 出所：IBES, FactSet, BNPP AM、2025年9月8日時点
[2] 出所：FactSet, BNPP AM、2025年9月8日時点

図表2 欧州株ファンドの残高と資金流入 (2009年1月~2025年11月)

